



# 医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信 第96号

(R4/2/4)



第97回ワーキンググループ会議 (R4.1.27)

「歳をとっても心は若者よ！ ～ある利用者から学んだこと～

●話題提供者 社会福祉法人グロー 養護老人ホームきぬがさ  
副所長(兼)生活相談員 志井 和美さん

医療職・介護職・家族の会・大学教員・製薬会社・行政などの参加がありました。Webで参加される方がほとんどですが、コロナが落ち着いたらぜひ対面でも参加してくださいね！



「施設での恋愛って…大丈夫なの？」

タブー視する声もあちらこちらから聞こえてきそうですが、けっして悪いことばかりではないということ、事例をあげてお話ししていただきました。

大切なのは、与えられるばかりの生活ではなく自分で生活スタイルを見つけること。

そうすることでADL(日常生活動作)や意欲の向上につながり、世界も広がるのですね！



(Case 1)

老人車を利用し、常時失禁があって紙パンツ、パットを使用していたちょっと短気な A さん(女性)。トイレに誘導しようとしても、面倒だからここで替えてほしいと言ってなかなかうまくいきません。

そんな A さんが 13 歳年下の B さんと仲良くなってから性格も穏やかに一変しました。何より驚いたのが失禁がなくなり自らトイレに行くようになったこと。

結婚も視野に、福祉とも相談して今後も見守る体制でしたが、残念ながら相次いで天寿を全うされたのでした。

いつも  
キレイで  
いないとね



養護老人ホームきぬがさが心掛けている支援

固定観念は捨て、違う  
方面からアプローチ  
する

与えられた生活や支  
援より、自分から発す  
る生活を応援する

恋愛は決してタブー  
ではなく支援の一つ  
とらえる

排泄介助について、違う方面からアプローチすることによって改善されることもある。それによって職員の介助が減り、利用者も自分磨きができる。

また、支援が介護する側の自己満足に終わらないようにと日々思っている。与えられた支援が利用者にとってどうなのか、与えられた生活はどんなにおもしろくないかということを職員には伝えていきたいし、皆さんにも考えていただきたい。

地域でのニーズや、地域の方に施設はどう思われているか、「施設に入ったら終わりだ」と言われないような支援の方法を、このような勉強会や研修会に参加して学んでいきたい。



志井 和美 さん

(Case 2)

性格は穏やかだけどいつも無気力でほぼ寝たきりの C さん(男性)は車いすを使用し、排泄はバルーン・ストマを造設しています。

部屋にこもりきりで移動や移乗にも介助が必要でしたが、新しく入所してきた D さんと仲良くなってからは自ら車いすで移動し、ストマケアも自分でできるようになりました。

要介護度も、今回の更新で改善する見込みです。出来ることが増え、好きな所に好きな人と行くことができる喜びを本人も感じておられます。



彦根市立病院 北川智美さんのコメント

今回の話題提供から学んだのは、心はいつまでも男子であり女子であるという「尊厳」の部分のいかにサポートするかが大切だということ。

セクシュアリティなことに年齢は関係なく、男女が互いにひかれあつたのを施設で適切に支援されていることに感服しました。

排泄介助だけをみたら汚くてきつい仕事ですが、それをいかに大事に扱うかはこちらの考え次第。こういったことを含め、大切にしていきたいですね。

【次回ワーキンググループ会議】

○日時：令和4年2月24日(木) 18:30~20:00

○場所：滋賀県庁 新館7階大会議室(Web可)

○テーマ：「作業療法士による排尿ケア  
～アセスメントと多職種連携の重要性～

○話題提供者：社会福祉法人慈恵会 ゆいの里  
作業療法士 岡本 理宏さん

参加者の声



- ・みんな、人とのつながりを求めていることがよくわかった。支援者を含め、人を信頼できることで前向きな気持ちになり、それが恋愛する意欲につながっていると感じた。
- ・生きがいや楽しみがあることが人として大事で、それを見つける支援も必要と感じた。
- ・リハビリも目的がないとできないが、利用者自らが発する生活を応援されていることが素晴らしい。
- ・普段から利用者の自由をサポートしたり、看取りができる人材育成の土壌作りをされているということが理想的な施設と感じた。一方で、そういった施設を運営していくにあたり情報共有の大切さと人材の確保も大切だと聞き、とても勉強になった。
- ・利用者をあたたかく見守っているところがとても素敵な施設だと思った。きっとスタッフの皆さんも明るく、施設全体が明るい雰囲気なんだろうと想像した。
- ・人に関心を持ったり、好きなことがあるというのが排泄に関して良い方向に進んだり要介護度の改善につながっていると聞き、すごい力だと思った。
- ・いろいろな選択ができる状況を作ってくださっているのがとても良いと思う。

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議運営事務局  
(滋賀県庁 医療福祉推進課内)

Tel 077-528-3529

Fax 077-528-4851

e-mail info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp

